



ひろ せ はるか
廣 瀬 悠 殿

ひろ せ じゅん こ
廣 瀬 順 子 殿

■事績

松山市出身の廣瀬悠さんは、小学2年生の時に柔道を始め、宇和島東高校時代にはインターハイに出場するほどの実力があつた。しかし2年の時に緑内障を患い、視力が0.1以下に低下、視野が20度以内という視野狭窄となる。一度は柔道を止めたものの、視覚障害者柔道を知り取り組み始める。28歳の時にパラリンピック北京大会に出場、5位入賞を果たした。

妻の順子さんは小学5年生の時柔道を始め、山口県代表としてインターハイに出場する実力があつたが、19歳の時に成人スティル病を発症、視力をほぼ失い視野狭窄となった。それから3年ほど柔道から離れていたものの、22歳の時に視覚障害者柔道を始め、2014年のアジアパラ競技会では銀メダルを獲得した。

2人は、視覚障害者柔道を通して知り合い、2015年に結婚。指導者は無く、高校や大学の柔道部に出向いたり、総合格闘技を練習に組み入れるなどして腕を磨いている。

パラリンピックで、同一大会同一競技で夫婦での出場は日本で初めて。悠さんは男子90kg級に出場し初戦敗退、順子さんは57kg級に出場し、日本柔道女子初の銅メダルを獲得した。

2人は2020年の東京パラリンピックで、夫婦揃っての出場・メダル獲得を目指す。(2人は伊藤忠丸紅鉄鋼のアスリート社員)

■主な受賞歴

- ・廣瀬 悠さん 愛顔のえひめ文化・スポーツ賞 (2008年、2015年、2016年)
- ・廣瀬 順子さん 愛顔のえひめ文化・スポーツ賞 (2016年)